

3. 大宮駅周辺地域の将来像

3. 大宮駅周辺地域の将来像

1) 将来像

- ・政令指定都市さいたま市の都心にふさわしい大宮駅周辺地域のまちの姿を、まちの特徴や地域の有する潜在力（東日本における位置づけ、大宮のおもてなしの心、歴史や文化等の地域資源など）をふまえて設定する。

■将来像

東日本の顔となるまち

東京中心部、北関東・東北地方や上信越地方と連携し、多様な都市活動が展開される東日本の交流拠点都市として、また、さいたま市の「顔」として、市民が誇りに思えるまちをつくります。

おもてなし、あふれるまち

大宮らしさを感じさせる様々な場所の個性を活かした「おもてなし」にあふれる地域として、初めて大宮を訪れる人も、大宮で働く人も、住む人も、楽しめるまちをつくります。

氷川の杜、継ぐ^{つな}まち

豊かな都市生活を守り、育て、継承していく地域として、氷川の杜に象徴される地域資源の活用、環境負荷の低減や高齢化社会への対応、次世代の育成などに取り組むまちをつくります。

■東日本の顔となるまち

●東日本の交流拠点都市

- ・東京中心部、北関東・東北地方や上信越地方と連携して、首都圏の放射軸の役割を担うとともに、東京中心部から環状方向に位置する業務核都市などと連携して、東京中心部からの機能分散の受け皿としての役割を担う地域を目指す。
- ・鉄道を集客装置として、埼玉県内及び群馬県や栃木県南部、千葉県北西部等も後背圏とする広域的な商業地を形成する。
- ・道路と公共交通が連携した広域的なアクセスを整備し、大宮の拠点性を充実するとともに、首都圏の交通の要衝として、国内諸都市ひいては諸外国との結びつきを強める。
- ・氷川参道や盆栽など、大宮の有する特徴や資源を余すところなく活かし、育てながら世界で存在感を発揮できる「大宮らしさ」を醸成していく。

●さいたま市の「顔」

- ・埼玉県、さいたま市の顔として、市民が誇りに思える地域を目指し、さいたま市を代表する景観や都市活動の拠点となるシンボリックな空間の形成を図る。

■おもてなし、あふれるまち

●土地利用や都市活動との連携などもふまえた「おもてなし」の展開

- ・大宮は、氷川参道や中山道、鉄道路線などを行き交う人々を受け入れ、「もてなす」ことで発展してきたまちである。長年つちかわれてきた「もてなし」の精神を受け継ぎ、大宮らしいモノやコトで、大宮に関係するあらゆる人を歓待する「おもてなし」を、まちづくりに活かす。
- ・商店の活動やイベントと一体となった「商空間のおもてなし」、高齢者や子どもでも安心して日常の買い物や散歩が楽しめる「居住のおもてなし」、広域的な都心としての業務機能を支える「ビジネスのおもてなし」、初めて訪れた人や外国人でも楽しく地域資源を巡れる「観光のおもてなし」など、場所の特性に応じた様々な「おもてなし」の展開を図る。

●まちの交流の場としての都市デザイン

- ・より多くの人に来て、見て、廻って、楽しめる都市空間をつくるために、東日本の中核駅である大宮駅から人々をまちに引き出すとともに、歴史ある東口と近年発展した西口、繁華街と静謐な杜や参道、大型商業施設と商店街など、大宮のまちの多様な魅力を感じながら快適に歩くことが出来る、人の行動に応じた体系的なデザインや一体的な沿道空間デザインを展開する。

- ・都心で展開する都市活動や市民生活を支えるために、駅周辺の道路負荷を抑えて、歩行者や自転車が快適に移動できる交通環境を形成するなどのモビリティマネジメントを推進する。
- ・街と人、人と人のコミュニケーションを活性化するとともに、楽しくわかりやすい、安全なまちの形成に役立てるために、大宮のまちを訪れるあらゆる人が思いのままにまちを楽しめるツールとして、ユビキタスネットワークなどの先端技術も活用した情報の活用を図る。

■氷川の杜、継ぐまち

●受けつがれる自然と新たな技術の調和

- ・長い歴史の中で育まれてきた氷川の杜、その面影をまちに伝える氷川参道、首都圏有数の大規模緑地空間であり地域の遊水機能を担う見沼田圃など、この地域が従来有している水や緑、動物など、地域固有の生態系の保全・回復などを通じて、生物多様性の維持・回復を図る。
- ・大宮の風土が持つ自然循環機能や先進的な環境技術の導入などを総合的に活用して、環境負荷の低い暮らしの実現を図る。

●大宮固有の歴史や文化の活用

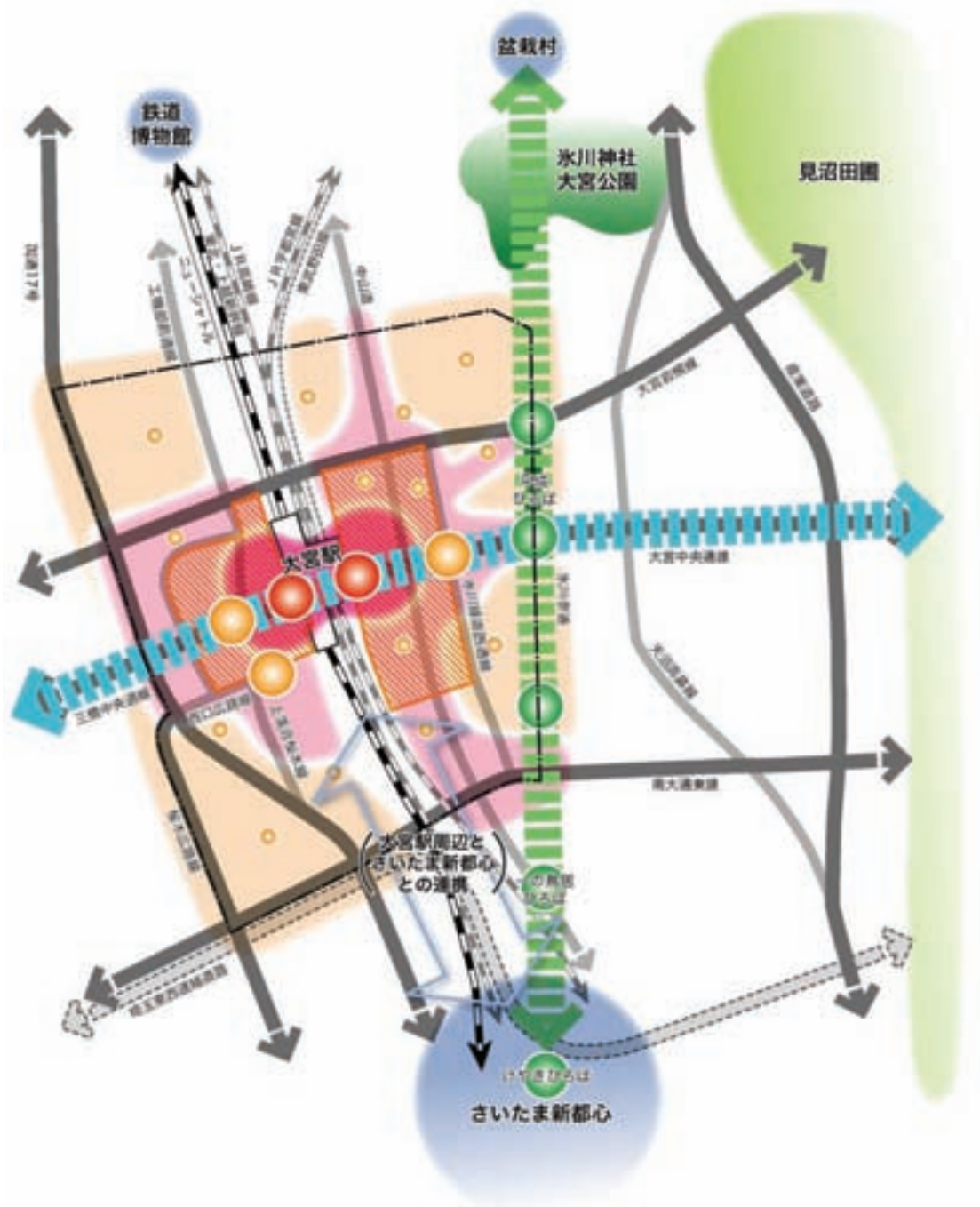
- ・地名の由来ともなっている氷川神社、市民の憩いの場として親しまれている氷川参道や大宮公園、特徴的な観光資源である漫画会館や盆栽村、広域的な自然資源である見沼田圃、新しい集客資源である鉄道博物館やさいたまスーパーアリーナ、NACK5 スタジアムなど、街の周囲に散在する資源と連携し、その魅力や価値を享受した地域文化やライフスタイルを継承し、新たに創造することで、より豊かな都市生活が営める地域を形成する。

●都市環境や生活環境の総合的な向上

- ・地球レベルで進められている低炭素化の取り組みを受けて、地球温暖化の抑制やヒートアイランド現象の防止など、環境問題の解決と都市環境の創造を一体的に捉え、環境と社会の両面から持続可能な社会を構築する。
- ・高齢化社会の進展や低炭素化社会に向かう流れを踏まえて、誰もが安全に、低環境負荷で移動できるように、自家用交通から公共交通への転換を促進する。
- ・少子化や高齢人口の増大などによる社会活力の低下を食い止め、安定した社会構造の形成を図り、居住者や利用者の属性やニーズの変化に対応した、暮らしやすく、利用しやすく、安心・安全なまちを構築する。

2) 大宮駅周辺地域まちづくりの方針

- ・大宮駅周辺地域の将来像「東日本の顔となるまち」「おもてなし、あふれるまち」「氷川の杜、継ぐまち」は、次世代を見据えた視点で、その実現を図っていく。
- ・その際、まちの個性や特性、地域資源などを活かして、大宮らしいまち空間をつくっていくために「大宮駅周辺地域まちづくりの方針」を構築する。



凡例



図 まちづくりの方針図

おもてなし都心ゾーン（既存機能の高次化と広域的機能の集積）

○ターミナル街区／駅および駅前ゾーン

- 大宮駅とその周辺街区が一体となり、交通の要衝、街の玄関としての機能強化を図る。

○おもてなし機能集積ゾーン

- 首都圏と北関東・東北・上信越・北陸地方との玄関口に位置する好立地なポテンシャルを一層高めるため、広域的業務機能やコンgres機能などを誘導し、高次業務活動を展開する。
- 駅直近の利便性を活かし、百貨店や複合商業施設など高度な商業から、個店が立ち並ぶ路地界隈を活かした個性豊かな街並み商業など、多様な商業機能を集積させる。

○駅周辺複合市街地ゾーン

- ターミナル街区およびおもてなし機能集積ゾーンを支え、かつ大宮ならではの都心生活を豊かに享受する住・商・業機能が適切に複合する市街地を形成する。
- 商業やオフィスとの複合居住、若者層や高齢者層、ファミリー層などの居住、路地型商業と共存する街なか居住など、街区特性に応じた多様な居住環境をサポートする機能を充実する。

シンボル都市軸（街の顔の創出と都市観光の推進）

○東西シンボル都市軸（三橋中央通線～自由通路～大宮中央通線）

- 東西市街地の往来など都心での様々な活動を支える活動軸となるとともに、駅から街への眺望を確保しつつ、おもてなし都心にふさわしいまちなみ創出のための沿道整備などを行う。
- 広域的な緑のシンボル軸である荒川、見沼田圃をつなぐ緑のシンボルロードとして整備する。

○氷川参道歴史文化軸（盆栽村～氷川神社・大宮公園～氷川参道～一の鳥居～けやきひろば）

- 参道に象徴される歴史や文化を次世代に継承するため、沿道環境の保全と適切な空間活用を図る。

おもてなし体感空間（おもてなしの空間や環境の整備）

○おもてなし歩行エリア

- 初めて大宮を訪れた人も、通勤や通学で毎日通っている人も、大宮に住む人も、街を楽しみながら、飽きずに快適に、安全に安心して過ごせる歩行空間を面的に創出する。

○おもてなしひろば

- 都心における多様な活動を促進するための交通結節機能や街情報受発信機能、都市の安全性や環境向上に寄与する防災機能や地域省エネ機能などを持つひろばを創出する。
 - * 駅前ひろば : 広域からの来街者も日常利用者も共通して誇れる街の顔を創出する。
 - * まちなかひろば : 駅前からまちなかに人を惹きつけ、駅前の賑わいを拡げる。
 - * 社のひろば : 氷川参道散策の立ち寄りスポットとして都心全体の回遊性を高める。
 - * ミニひろば : 人々の憩いの場として高密度な市街地の環境を改善する。

都心活動を支える交通基盤（既定都市計画道路の整備の推進）

○外周道路

- 都心を形成する広域幹線道路を強化し、通過交通と地域アクセス交通との分離によって、都心部の渋滞の解消と秩序ある交通環境を維持する。

○地域内幹線道路

- おもてなし歩行エリアの外周を形成する幹線道路を整備し、公共交通のスムーズな走行による街へのアクセシビリティ改善、荷捌き等の業務活動の円滑化等を図る。

「将来像」に関わる地元のみなさまのご意見

～平成20年度意見交換会より～

■東日本の顔となるまち

- ・さいたま市は政令指定都市であり、州都となる可能性を持ったまちである。
- ・大宮の後背圏を広くとらえてビジョンを検討していくべき。
- ・近未来の高齢化社会や道州制の中心都市として、人間性を重視した都市のあるべき姿を提案してほしい。
- ・大宮駅はターミナル駅であり、その周辺地域の果たす役割は大きいと考える。
- ・現制度のまま、この不況に立ち向かうことは困難。その対処法の1つに「道州制」があると思う。

■おもてなし、あふれるまち

- ・大宮らしさの象徴である氷川神社、鉄道、盆栽などを活用して、他都市の真似をするのではなく、大宮独自のまちづくりを進めたい。
- ・この地区に住む人、商う人、働く人、学ぶ人たちが“いい街”であると感じられるまちにして、賑わいを創出したい。
- ・精神的に豊かになれるまちにしたい。
- ・人にやさしいまちにしたい。
- ・だれでもが“楽しい時間”を消費できるまちにしたい。
- ・観光目的から“感幸目的”の来訪者を呼び込めるまちにしたい。
- ・一の宮通り、桜の名所である大宮公園などの資源を活かしたい。
- ・たくさんの商店街で買い物をした後、南銀で「夜のおもてなし」ができるまちにしたい。
- ・新都心～参道～大宮公園を歩いて回遊できるまちにしたい。

■氷川の杜、継ぐまち

- ・「残すべきものを残す」という視点を地域戦略ビジョンに取り入れてほしい。
- ・地域の歴史、風土や伝統を活かし、“大宮らしさ”を語り継いでいけるまちにしたい。
- ・歩行者空間の緑化などにより、大宮駅周辺をさいたま市の中で最も緑豊かなまちにしたい。
- ・自動車に頼りすぎないで移動ができる低炭素なまちにしたい。
- ・地域力のある自立的なコミュニティを醸成していきたい。

※この他にもたくさんのご意見を頂きました。

